

ひろしま 気候変動適応センター

⑥さまざまな分野で始まる適応

気象庁によると、気候とは「ある程度長い期間における気温や降水量などの大気の状態」とされています。気温や降水量は、上下動を繰り返しながら変化しています。これら短期的な変動の多くは、大気や海洋の循環などによる自然なゆらぎによります。

また、気候変動とは、数十年あるいはさらに長期間に渡って続く気候状態の変化を指します。気候変動には、自然要因、人為的要因の2種類があります。

1850～1900年(工業化以前の基準期間)から2010～2019年(最近

気候変動で健康被害や自然災害増加 影響が生じる可能性が高い7分野

10年間)までの人為的な世界平均気温上昇は1.07℃であり、「人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない」と国連気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の第一作業部会第六次評価報告書(2021年8月に発行)で報告されています。日本においても長期的な気温が上昇傾向を示しており、例えば広島市、呉市の平均気温は1915～1919年と100年後の2015～2019年を比較すると、それぞれ2.1℃、1.6℃上昇しています。

気候変動は気温上昇、降水パターンなどの気候変化が、水温上昇や生物季節の変化、作物の品質低下、健康被害や自然災害の増加などを引き起こします。日本で

主に影響が生じる可能性がある分野としては、「農業・森林・林業、水産業」、「水環境・水資源」「自然生態系」「自然災害・沿岸域」「健康」「産業・経済活動」「国民生活・都市生活」の7つが挙げられており、農作物の品種変更、熱中症警戒アラートの運用、治水計画への反映など、さまざまな適応が始まっています。

(ひろしま気候変動適応センター)

気候変動適応の主要7分野



出典：気候変動適応情報プラットフォーム

8月1日新しい県動物愛護センター開庁 人と動物との調和のとれた共生社会へ

動物の 愛護と管理 を考える⑤

今回は、第3回の連載でもご紹介した、県の新しい動物愛護センターについて取り上げます。

新センターは、「人と動物との調和のとれた共生社会」を実現するための拠点として、広島空港付近に、令和5年8月に開庁を予定しています。

開庁後は、土日祝日も開館し、民間事業者にも運営の一部を担っていただき、自由な発想

で、より多くの犬や猫を、新しい飼い主さんのもとへ導いていきたいと考えています。

土曜日は県職員が譲渡会やしつけ方教室などを、日祝日は民間事業者が近隣の企業や動物愛護団体・ボランティア等と協力し、動物愛護に関するイベントを開催し、地域を盛り上げていきます。

楽しく動物愛護について知ることができるよう施設していきます。

(広島県健康福祉局 食品生活衛生課)



完成イメージ図

災害が発生した際の二重映像にもあるとおり、避難所では多くの人が生活したり、出入りするため、感染症に罹患するリスクが増加したり、騒音や暑さ・寒さなどによりストレスが溜まったりと、

公衛協が 取り組む 防災・減災⑥

熱中症やエコノミークラス症候群のリスク

他団体と連携した備えを

体調を崩すリスクが高まります。さらに、トイレの利用が制限される環境の場合、水分の摂取を控えてしまい、脱水症状や熱中症にも気を付ける必要があります。この他、長時間同じ姿勢のままでいると、エコノミークラス症候群(左図参照)も心配です。

避難所を、安心して生活ができる環境に保つためには、利用者ひとりひとりの理解と協力が必要不可欠です。

手洗いや消毒、うがいの励行、屋外から戻る際の靴底の消毒、トイレや炊事場をきれいに

に使うなどの呼びかけや掲示は公衛協で率先して行いましょう。

ストレスやエコノミークラス症候群対策には、ストレッチやウォーキングなど体を動かす時間を設け、話したり体を動かすことで効果が期待できます。日ごろ行っている100歳体操や市町の健康体操などを活用しましょう。

広島県では、災害時の公衆衛生を確保する目的で、「広島県災害時公衆衛生活動マニュアル」が定められており、専門家が支援チームをつくり、避難所を

巡回して、健康状況の把握や衛生管理・環境整備等の助言・相談などが行われます。

しかし、災害の規模等によっては支援に時間がかかる場合もあります。有事に備え、自治会や自主防災会、市町保健部局や運動指導ができる識者と平時のうちに関係をもち、防災備蓄品の確認や、地域の識者の把握、地域内の各団体が提供できる運動やストレッチのメニューを確認し、有事の際にも活動できる準備を始めましょう。

(地域活動支援センター)

エコノミークラス症候群

水分をとらず、長い時間同じ姿勢でいると、ふくらはぎなどの血行が悪くなり、血の塊(血栓)ができます。その血の塊が肺の血管に移動して詰まると、激しい胸痛に襲われ、最悪、死に至ることもあります。

車中避難者にも注目(車で避難生活する方)

熊本地震の際、プライバシーが確保できる、避難所に入りきれないなどの理由で、車中避難をする方がマスメディアにも多数紹介されました。エコノミークラス症候群のリスクや、車中避難者の状況把握の難しさ、情報提供の仕組みづくりが課題となっています。

車中避難でエコノミークラス症候群を防ぐポイント

- ①水分をしっかりとる
- ②車に携帯トイレを備蓄しておく
- ③足を水平に伸ばせる環境づくり
- ④定期的に運動したり、マッサージをする
- ⑤避難所に顔を出し、車中避難していることを知らせる